

1 2030年における地域のめざす姿

○先端技術を導入した高付加価値農業の先進地

生産年齢人口が減少する中で、農家の高齢化や深刻化する労働力不足に対応するため、ICT等を取り入れた新たな農業（スマート農業）の推進や熟練した技術が不要な新たな栽培方法、施設型農業分野での自動化技術などを積極的に導入した高付加価値農業が営まれています。

また、農産物の生産・加工・販売を地域内で各主体が連携・協力して展開する体制が整備されており、海外への輸出から全国的な流通、産直施設での販売、農家レストランや家庭での食事に至るまで、あらゆる場所で津軽の「美味しい食」が提供されています。

○優れた「人財力」を誇るものづくりの地

中南地域に集積している加工組立型産業や医療機器などの先端技術産業、豊富な地域資源を活用した地場産業などの各分野において、高い労働生産性を実現する優れた人財が数多く集まり、活躍するものづくりの地が形成されています。そこでは、企業や大学、試験研究機関などで働く人財が協力し、競い合いながら独創的な技術を創造しています。

また、津軽塗、ブナコ、津軽打刃物など、数多くの優れた工芸品が存在する地域となっています。

○多彩な観光資源を活用した感動劇場

新幹線や航空機を利用して全国や世界各国からこの地を訪れた人々は、世界自然遺産白神山地や秀峰岩木山を始めとした自然の恵みや城下町の古い町並み、明治のハイカラな洋館や近代モダニズムを象徴する建造物、豊かに広がるりんご園や地域の食、工芸品など、津軽の地で暮らしてきた人々が紡いできた物語を文化として感じ取り、興味深く楽しんでおり、訪れた人々が懐かしさと温もりに心地よさを覚えながら、更なる知的好奇心に心が躍り「また訪れたい」と何度も足を運ぶ感動の地となっています。

○誰もが支え合い健康に暮らせる地域

中南地域では、豊かな自然環境の中で、健康的な生活習慣を支えるヘルスリテラシー（健やか力）が子どもの頃から普及定着しており、健やかで豊かな生

活を送るために必要な食育や運動などに住民一人ひとりが楽しく積極的に取り組んでいるとともに、自主的な健康づくりを行う多様な住民組織も数多く作られています。

また、「公助」だけではなく「互助」や「共助」といった、行政のほか住民組織や社会福祉法人、NPO、ボランティアなどが横断的に連携し、誰もが支え、支えられる地域の仕組みづくりがなされています。

2 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

(1) 地域の概要

○山々と豊かな水に育まれた米とりんごの里

中南地域は、県の南西部に位置し、東方には八甲田連峰、西方には岩木山と白神山地、南方には矢立峠など山々に囲まれており、県内で唯一海に接していない地域です。白神山地に源を発する岩木川と、その支流の浅瀬石川、平川が津軽平野を潤して肥沃な土壌を形成しており、本県を代表する穀倉地帯となっています。また、平野周辺部の丘陵地帯には、日本を代表するりんご園が広がっています。

○四季折々の豊かで美しい自然

岩木山が冬の北西からの季節風を遮ってくれることで、全国有数の豪雪地帯である津軽地域の中にあっては比較的穏やかな地域であり、夏も偏東風（ヤマセ）の影響が少なく、季節ごとに表情を変える豊かで美しい自然を堪能することができます。

○歴史や伝統に育まれた豊富な地域資源

津軽氏の城下町を中心に古くから人や物資が集積した中南地域は、国指定史跡の弘前城や黒石市のこみせ通り、岩木山のお山参詣や各地域でのねふた祭りなどの豊富な地域資源を有し、歴史や伝統に根ざした文化の香り高い地域であり、津軽塗を始めブナコや津軽打刃物など地域の資源と技を生かした数多くの優れた工芸品が生み出されています。

○高速交通体系の整備によるアクセスの向上

中南地域の基幹道路として国道7号、国道102号、東北縦貫自動車道が県内外に伸びており、鉄路としてJR奥羽本線、JR五能線、弘南鉄道が運行されています。

2010（平成22）年の東北新幹線全線開業や2016（平成28）年の北海道新幹

線の開業、また、青森空港への国際定期便・チャーター便の就航等により、中南地域と国内外とのアクセス環境は飛躍的に向上しています。

○医療機関や試験研究機関の集積

弘前大学医学部附属病院を始めとした医療機関が集積していることに加え、弘前大学や青森県産業技術センター弘前工業研究所、同農林総合研究所など数々の試験研究機関があり、地域の健康づくりや産業振興に寄与しているほか、近年は業務用機械や電子部品、電気機械などの最先端の加工組立型産業が立地しています。

(2) 地域の特性と課題

○構成市町村ごとの人口、世帯数

中南地域の人口は、27万7,854人であり、弘前市が全体の約6割を占めています。(表1)

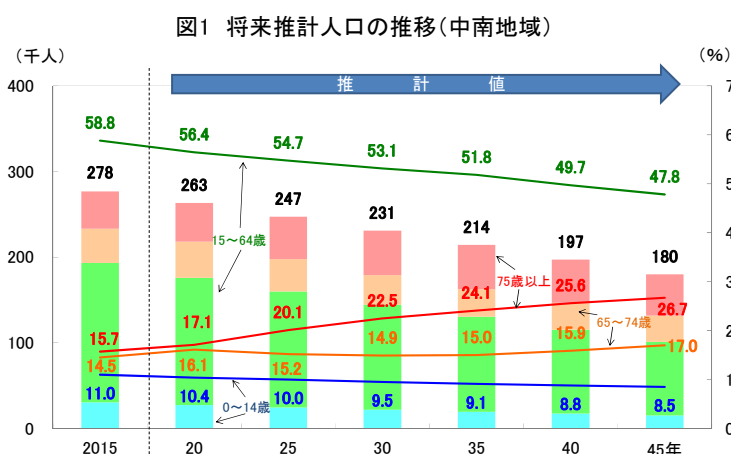
表1 構成市町村の人口・世帯数

	弘前市	黒石市	平川市	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	合計
人口(人)	177,411	34,284	32,106	1,415	15,179	9,676	7,783	277,854
世帯数	71,152	11,770	10,129	488	4,942	3,421	2,382	104,284

資料：総務省「平成27年国勢調査」

○将来推計人口

中南地域の人口は、2030年には23万897人となり、2015年と比べ4万6,957人減少すると推計されています。また、75歳以上の人口の割合は、2015年の15.7%から22.5%に上昇すると推計されています。(図1、表2)



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「市町村別将来推計人口(平成30年3月推計)」

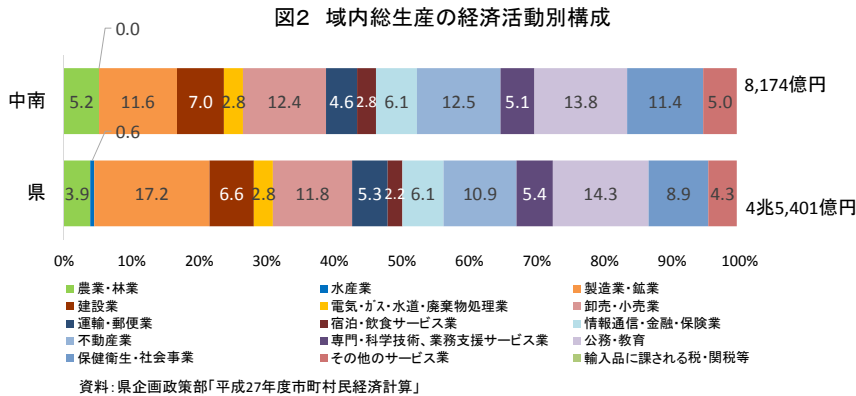
表2 構成市町村別将来推計人口

	2015年	2030年	2045年
弘前市	177,411	151,287	120,920
黒石市	34,284	27,468	20,340
平川市	32,106	26,245	20,154
西目屋村	1,415	953	611
藤崎町	15,179	12,460	9,522
大鰐町	9,676	6,225	3,649
田舎館村	7,783	6,259	4,618
計	277,854	230,897	179,814

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

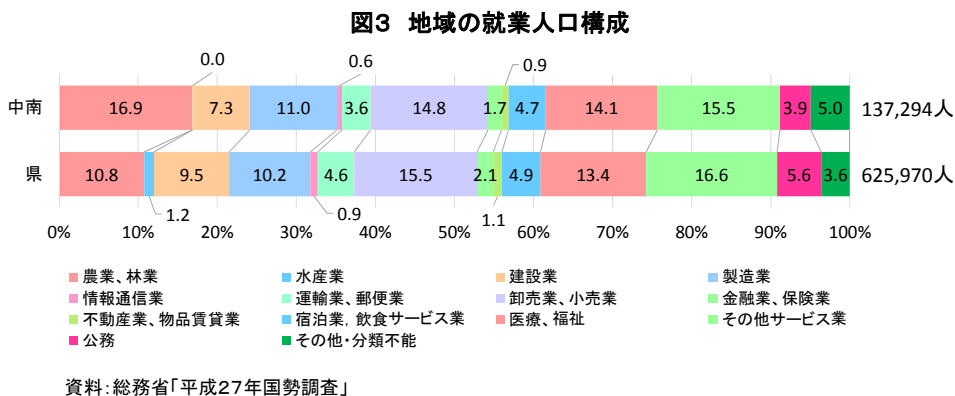
○域内総生産の経済活動別構成

中南地域の域内総生産は8,174億円であり、県全体の18.0%を占めています。内訳を県全体と比べると、「サービス業」や「不動産業」、「卸売・小売業」などの割合が県全体より高くなっています。（図2）



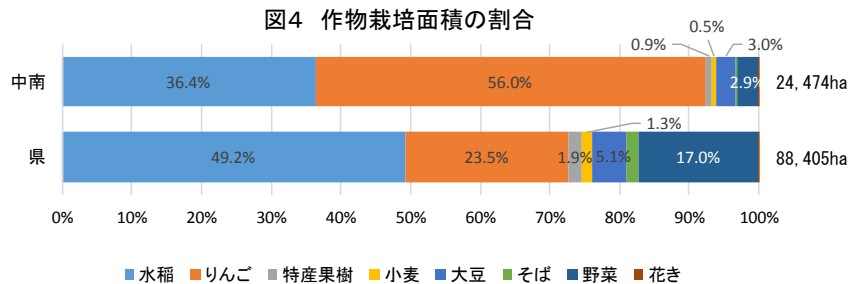
○就業人口構成

中南地域の就業者数は13万7,294人であり、県全体の21.9%を占めています。内訳を県全体と比べると、「農業、林業」の割合が高く、「建設業」、「公務」の割合が低くなっています。（図3）



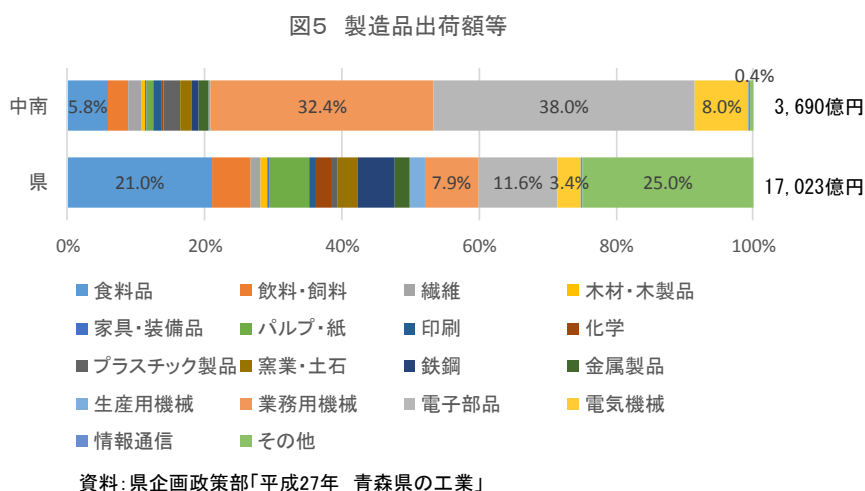
○作物栽培面積

中南地域の作物栽培面積は2万4,474ヘクタールであり、県全体の27.7%を占めています。内訳を見ると、りんごが56.0%、米が36.4%とこの2つで全体の92.4%を占めています。（図4）



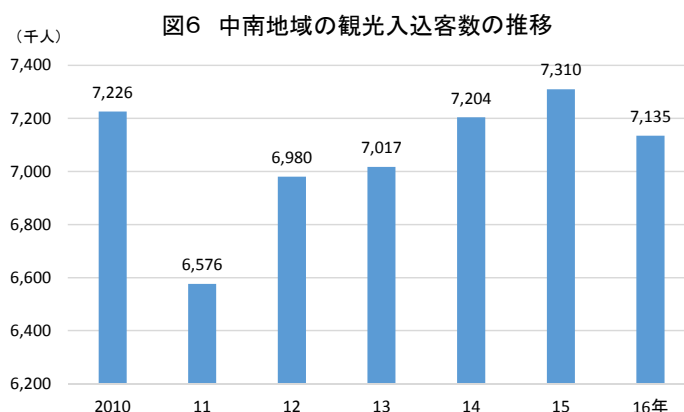
○製造品出荷額等

中南地域の製造品出荷額等は3,690億円であり、県全体の21.7%を占めています。内訳を見ると、業務用機械が32.4%、電子部品が38.0%、電気機械が8.0%を占めており、加工組立型産業が盛んな地域です。また、豊富な農産資源を活用した食料品製造業も盛んです。（図5）



○観光入込客数

中南地域の観光入込客数は713万5千人であり、県全体の20.3%を占めています。東日本大震災以降、これまで着実に増加してきており、700万人台で推移しています。（図6）



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」。ただし、2011年、2012年は同統計による入込客数に田舎館村「田んぼアート」の入込客数（2013年からは同統計に含まれている。）を加え、中南地域県民局が作成。

○平均寿命

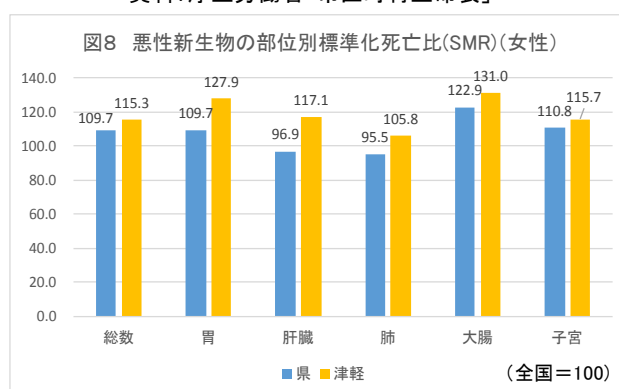
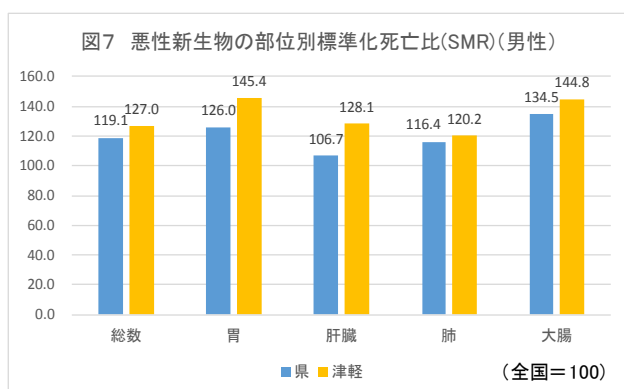
2015（平成27）年の中南地域の市町村別の平均寿命は、2010（平成22）年に比べて女性の藤崎町、大鰐町を除く男女で伸びていますが、男性は弘前市、田舎館村を除く5市町村で、女性は弘前市、黒石市、西目屋村を除く4市町村で県平均を下回っています。（表3）

津軽地域保健医療圏の悪性新生物（がん）の標準化死亡比（SMR）[※]は、男女とも総数、部位別において、県平均より高くなっています。（図7、図8）
 ※標準化死亡比（SMR）：死亡率は通常年齢によって大きな違いがあることから、標準的な年齢構成に合わせて地域別年齢階級別の死亡率を算出し、全国水準との比較を可能にするもの。100を上回ると全国水準よりも死亡率が高いことがわかります。

表3 市町村別平均寿命

市町村	男性				女性			
	2015年	県平均との差	2010年	2015-2010	2015年	県平均との差	2010年	2015-2010
青森県	78.7	-	77.3	1.4	86.0	-	85.4	0.6
弘前市	79.0	0.3	77.7	1.3	86.2	0.2	85.7	0.5
黒石市	78.3	△ 0.4	76.7	1.6	86.0	0.0	85.4	0.6
平川市	78.6	△ 0.1	76.7	1.9	85.7	△ 0.3	85.4	0.3
西目屋村	78.6	△ 0.1	77.5	1.1	86.0	0.0	85.2	0.8
藤崎町	78.5	△ 0.2	77.5	1.0	85.4	△ 0.6	86.4	△ 1.0
大鰐町	78.3	△ 0.4	76.9	1.4	85.7	△ 0.3	86.0	△ 0.3
田舎館村	78.8	0.1	76.9	1.9	85.9	△ 0.1	85.2	0.7

資料：厚生労働省「市区町村生命表」



資料：県健康福祉政策課集計（2011～2015年分の試算）

※津軽地域の構成市町村は、弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町である。

3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

（1）労働生産性の向上や6次産業化による稼げる農林業の推進

生産年齢人口が減少する中で地域の経済を支えていくため、農業の現場において、より一層の高付加価値化を進めることで労働生産性の向上を図ります。

また、農家の高齢化や深刻化する労働力不足に対応するため、効率化・省力化を促進する栽培技術の確立に取り組みます。農業の6次産業化を進めることで稼げる農業を推進するほか、農業を観光や地域づくりの一つの資源と位置付け、これらの分野での活用を推進します。

【主な取組】

- ①「青森りんご」のブランド力を生かした輸出促進のための検疫措置の徹底、あおもり米「青天の霹靂」の市場価値を更に高めていくためのきめ細かな栽培指導及び特別栽培の定着、グローバルGAP[※]認証の取得促進
- ②高齢化や労働力不足に対応した、熟練した技術が不要な栽培方法の導入による新規就労の促進やICT等を取り入れた新たな農業の推進、農家と補助労働者とのマッチング機会の充実
- ③施設型農業分野での労働生産性向上を図るための自動化技術やAI技術の導入促進
- ④農業の6次産業化を促進するための各分野の連携・協力による生産力・加工力・販売力の充実・強化
- ⑤「地域経営」の核となる担い手の確保・育成
- ⑥農林業の競争力強化に向けた基盤整備の推進
- ⑦農林作業・加工体験メニューの充実と農家民泊などによるグリーン・ツーリズムの推進

※グローバルGAP：農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための農業生産工程管理の取組（GAP：適正農業規範）の国際的な認証のことです。

（２）ものづくり産業を支える人財力の強化

労働生産性を高めて労働力不足に対応していくため、管内に立地する誘致企業や地元企業で働く人々の人財力向上を図るとともに、就業体験や企業とのマッチング機会の充実等を図っていくことで若者や女性の定着を促進します。

また、高等教育機関や試験研究機関と連携して医療・健康・福祉関連産業や先端技術産業の創出に取り組む人財の育成・誘致を図ります。

【主な取組】

- ①管内に数多く立地している加工組立型産業等で働く人財のスキル（技術力・企画力等）向上のための研修機会等の充実
- ②高校生や大学生など若者の県内定着を促進するための就業体験やキャリアデザインをトータルで考えることができる情報の提供、UIJターンのための効果的な情報発信など、多様な選択肢を確保するための機会の提供
- ③高等教育機関や試験研究機関を核とした医療・健康・福祉関連産業や先端技術産業の成長促進、AI技術等を活用して農業分野やものづくりなどの地域産業に貢献する人財の育成・誘致
- ④伝統工芸産業の販路拡大や後継者育成の促進

(3) 感動の舞台づくり

自然、歴史、文化、食など様々な観光資源を生かしながら、ターゲットを明確にした観光プログラムの設定・充実を図るとともに、それらの情報を的確に国内外の観光客に向け情報発信することにより、交流人口の拡大を図ります。

また、北海道新幹線や青森・函館両空港を利用した立体観光メニューの造成、外国人観光客の増加に対応した電子決済などの受入態勢の整備促進を図ることで「北海道・北東北観光のブロードウェイ」をめざします。

【主な取組】

- ①自然・歴史・文化・食・伝統工芸など、津軽の暮らしを体験できる街歩き観光の推進
- ②世界自然遺産白神山地を始めとした豊かな自然の魅力に触れることのできる自然体験観光の推進
- ③美しい都市景観の形成促進や交通手段の利便性向上
- ④電子決済システムの導入やW i - F i 環境の整備の促進
- ⑤外国人観光客や個人・小グループの旅行に対応した特色のある観光メニューづくりと情報発信の強化

(4) 誰もが支え合い安心して暮らしていける地域社会づくり

働き盛り世代の死亡の減少と健康寿命の延伸を図るため、がん検診受診率向上と要精密検査者の精密検査受診率向上のための取組や子どもの頃から運動に親しむ環境づくりを進めます。

また、地域において、住民一人ひとりが生き生きと暮らしていけるよう、住民や各種団体等が自ら考え、連携して高齢者等の外出支援や安否確認、買物支援など、地域で互いに支え合う仕組みづくりと安全・安心な生活環境の保全に取り組めます。

【主な取組】

- ①がん検診受診率と精密検査受診率の向上に向けた啓発活動の強化
- ②子どもの頃から健康づくりを学ぶ機会の提供と気軽に運動に取り組むことができる環境づくり
- ③禁煙及び受動喫煙防止対策の一層の推進
- ④地域の実情や課題に応じた「青森県型地域共生社会」の実現に向けた多様な主体による取組の促進
- ⑤安全・安心な生活環境を保全していくための水・大気環境の保全や廃棄物の適正処理とリサイクルの促進